

『対談 畑岡奈紗プロ×井上透IJGA代表理事』



世界ジュニア 15-17 歳の部女子で 2015、16 年と 2 連覇を達成した畑岡奈紗が、プロゴルファーとしてスタートを切った。2016 年日本女子オープンでは最年少 17 歳 263 日で史上初のアマチュア優勝を果たし、プロ転向を宣言。米女子ツアーの QT に挑戦して見事 2017 年シーズンの出場権を獲得した。世界ジュニアをステップに、世界に飛び出す「NASA」に、国際ジュニアゴルフ育成協会 (IJGA) の井上透代表理事が、畑岡の過去・現在・未来を聞いた。

◆2016 年日本女子オープン優勝

井上 あらためて、日本女子オープン優勝、素晴らしかったですね

畑岡 ありがとうございます。

井上 一番良かった点、勝てた理由はわかるかな。

畑岡 4 日間通して、攻めることが最後までできたと思います。

井上 あのコースで？ タフなセッティングだったでしょ。ドライバーを使用したということかな、攻めたというのは。

畑岡 4 番ウッドで刻むということはそんなになく、どんどんドライバーで行きました。

井上 あの 18 番セカンド (7 番アイアン) もすごかったね。あそこを狙ったの。

畑岡 もう少し右を狙っていたんですけど、ちょっと左に行って、ちょうどピンのところにかぶっていった。

井上 (ピン奥下り4メートルの) パッティングも素晴らしかった。

畑岡 もう入れるしかないと思って打ちました。



◆畑岡奈紗のゴルフのルーツ

井上 奈紗のゴルフのルーツを聞きたいんだけど。

畑岡 始めたのは11歳で、母親と練習場に行ったのがきっかけです。

井上 その辺も普通の家庭じゃないよね。普通ならお父さんで行っている。

畑岡 父は全くゴルフはやらなくて。

井上 それがよかったかも。お父さんで厳しい人もいっぱいいるし。そういう感じじゃなかったんだね。一生懸命できたんだ。

畑岡 自分でやりたいといって。

井上 ゴルフを始めたいといって、その後の練習量とかは。

畑岡 そんなに多くなかったと思います。練習場では1日100球ぐらいで、コースにはほとんど出ていなくて、月に1回、2回とか。

井上 指導者もいなかった。

畑岡ほんとに自分でやっていたという感じです

井上 すごいね、70台を出したのは。

畑岡 1年後ぐらいとか。

井上 その練習で70台がすごいね。その前に野球をやっていた。

畑岡 小学校で野球をやって、中学校で陸上をやっていました。

井上 ほかのスポーツをやっていたのが、ゴルフにいい影響があったということかな。僕らが畑岡奈紗を初めて知ったのは 2014 年の世界ジュニア日本代表選抜大会北海道予選の練習ラウンドかな。飛ばすし、すごい子がいるよ、と話題になっていた。世界ジュニアに出ようと思った経緯は。



◆世界ジュニアの思い出

畑岡 その前に父に主にアジアですが、試合を探してもらって出ていたんですけど、米国というのは将来的に考えると世界一を決める舞台でもあるので、行ってみたいという思いがありました。

井上 そして実力を発揮して出場した。3回の世界ジュニアでどんな思い出があるかな。

畑岡 初めて行ったときは8位タイだと思ったんですけど、先輩2人、永井花奈さん、蛭田みなみさんと、同級生の(小倉)ひまわりちゃんに行ったんですけど。

井上すごいチームだね、今考えると。オールジャパンだね。

畑岡初めての米国だったので、ただただ楽しいという感じでしたね。

井上楽しかったね。蛭田の誕生日祝いでケーキをみんなで顔につけたり。翌年、2回目は？

畑岡団体戦もありましたので、気合が入りました。

井上優勝して、肩書がついて変わった？ 周りも変わったでしょ。

畑岡前の年、1年生の時の日本ジュニアで負けて、その後も優勝争いしてもなかなか勝つことができなくて。世界ジュニアが私の2回目の優勝だったので。

井上世界ジュニアの3回目の優勝は、コースが全然違ったコースでどう思ってプレーしましたか。

畑岡 まったく違うコースで、ティーショットをピンポイントで打っていかないといけないホールが多かった。

井上 優勝を争ったユウカ・サソウ(フィリピン)はすごいと思った？

畑岡 私のドライバーがよくなかったからか、ちょっと置いて行かれましたね。全米女子アマの時は変わらなかったですけど。

井上 これから世界ジュニアを目指すたくさんの後輩たちに励ましの言葉を。

畑岡 世界ジュニアはいろんな国の人が出てきて、もしかしたら将来戦う人がいるかもしれない。私も、初めて優勝した時に争った選手が今は友達なので。世界ジュニアは友達を作るチャンスでもあるし、今自分に何が足りないかを知る大会でもある。楽しんでほしいです。

井上 サンディエゴの空の下でゴルフできるのは最高だよね。3回行けて、すごい楽しい試合だったんじゃないかな。

畑岡 はい、そうでした。



◆世界ジュニアから米女子ツアーへ

井上 世界ジュニアのタイトルは歴代すごい選手が勝っていて、奈紗がそれで勢いづいて、そのあとはことごとく勝っていったじゃない。今年も期待されて勝った。その後の全米女子アマでどうでした？ 僕は優勝候補最有力と思っていたけど。

畑岡 ベスト8で当たった選手が世界ジュニアで優勝を争ったサソウなので、お互いどういうゴルフをしてくるか、分かっていたのですが。勝ちたかったです。

井上 (ベスト8で敗れて)ソン・ユンジョンとの戦いを見たかったけど。これからプロのステージでも続いていくだろうし、韓国勢の厚い壁を打ち破るタフな選手が出てきたと、日本のみんなが思えるようになった。その後、米女子ツアーのQTに出ると宣言して、日本ジュニアを欠場して米国のツアー予選会を選んだ。その思いはどこから来たのかな。

畑岡 初めて世界ジュニア優勝して、翌年4月にスウィングスカートに出させてもらって。それに出るまでは、何となく日本でプロテストを受けて、日本でやってからどうしようとかあやふやだったんですけど、その試合に出て、こっち(米国)でやらないといけないんじゃないかなと思いました。

井上 やっぱりレベルの差を感じた？

畑岡 世界ジュニアでも差というのは感じていました。

井上 いろんな国際大会を経験して、何が一番の差だと思う。奈紗にはどんな景色が見えているんだろう。

畑岡 やっぱり、米国では国内でも芝が違い、海外の選手はタフだと思いました。

井上 一番の差はメンタル面だと思う？ TOTOジャパンを観戦して、一緒に回ると、外から見るのとは違うと思う。外から見ると上手に見えるかもしれないけど。予選カットどのぐらいだなとか、思っていたより高いとか低いとか、全体のレベルとか、圧倒的な差を感じたのか、意外とやれるかもと思ったのか。

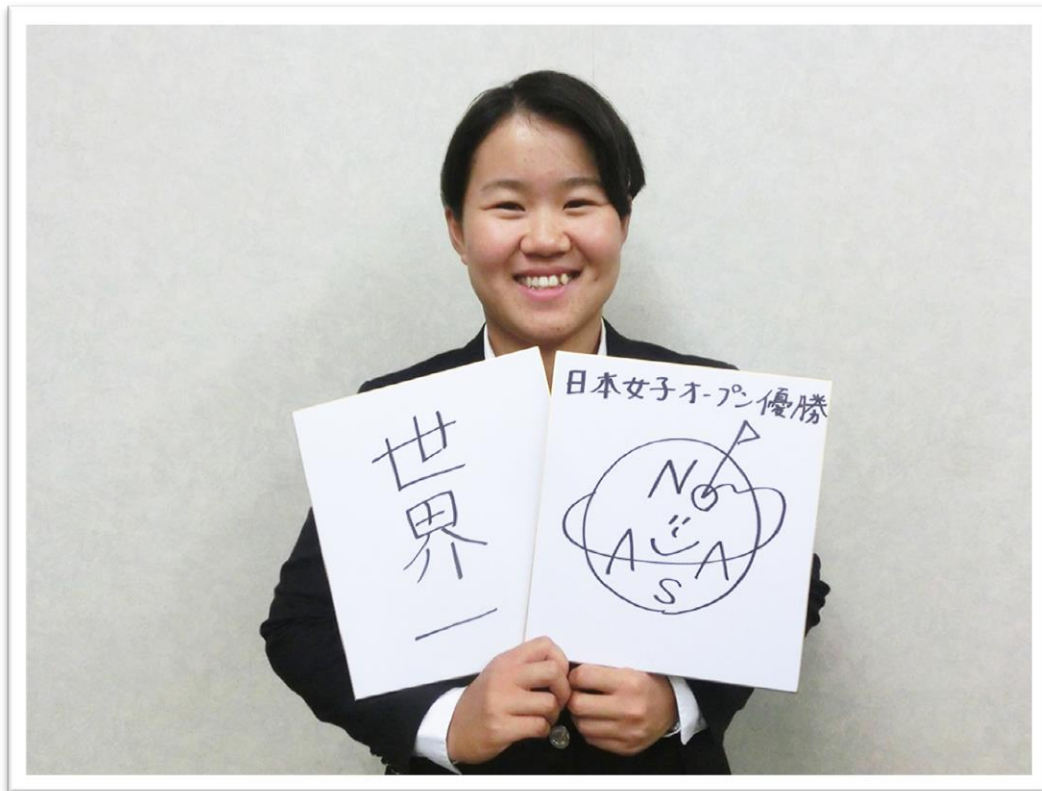
畑岡 自分自身では思っていたよりは離れていないと思った。スウィングスカートでは、タフなコンディションの中で、調子の悪い中でベストなプレーができて。

井上 調子悪かったの？ 何位だっけ。

畑岡 スウィングスは最終的には 60 位タイで終わってしまったんですけど、すごく風が強くて、グリーン周りが難しかった。

井上 初めて米女子ツアーの試合に出て、予選を通過した奈紗ってすごいんだなと思ったけど、今の言葉を聞いて確信めいたものがある。調子悪かったんだよね、でもその順位で収まるところに実力を感じる。選手の肌感覚は非常に大事で「私は通用する」と思ってQTを選んだよね。

畑岡 そうです。



◆将来の夢、目標、課題

井上 肌感覚で普通の子は通用しないと思う。「自分は通用する」と思うからQTを受けたんだなと思うと、すごい未来が待っていると思うよ。来年の課題と目標を聞かせてください。

畑岡 来年はレギュラーツアーに参戦できるのがベストだと思うんですけど、1年目から翌年のシード権を取ることを目標にしてやりたい。

井上 控えめだなあ。俺だったらもう少し大きく思っちゃうけど。技術的な、プレーヤーとしての課題はどこになるかな。

畑岡 心技体すべてが足りないと思います。

井上 技術的には？

畑岡 アプローチのバリエーションを増やしていきたい。

井上 フィジカルは？

畑岡 米女子ツアーは4日間大会が多いので、4日間通して戦える体を作りたいです。

井上 メンタルは？

畑岡 最初はなかなかうまくいかないことがあると思うんですけど、そこでめげずに、自分を見失わないようにやりたいと思います。

井上 そういう自覚があれば頑張れますよ。すごいと思ったのは、1 回目の世界ジュ

ニアには球筋がドローで出て、2 回目にフェードにしてきて、3回目は両方出ている、打ち分けていたのかな、ストレートに近くなっていた。

畑岡 高校 2 年生の時にフェードで打った方が安定すると思ったんですけど、まだ時々スイングがドロー系になってしまってた。

井上 じゃあの時はドローになっちゃっていたんだ。

畑岡 グリーンが硬いんで、止まるボールを打つにはフェード系で打っていかないと止まらない時もあるんで。

井上 やっぱ意識が高いよね。通常、女子の選手はフェード打つ余裕がないんですよ。距離的な。圧倒的な距離がある奈紗であるがゆえに、男子プロ的なマインドで物事を見ている。なかなかできることではない。すごく成長したし、米国で活躍できると思います。

井上 サインと今後の目標を書いてもらえるかな。サインは自分で考えたの？ 格好良すぎる。

畑岡 父と一緒に考えました。

井上 一番の目標は？ いっぱいあるでしょ。

畑岡 メジャーを取りたい。世界一でいいですか。

井上 もちろん。宣言したからには頑張ろう。来年は米国で大活躍するのは日本のゴルフファンは誰しもが思っていることだと思う。僕は成功を確信している。最低でも賞金ランク 50 位、うまくいけば1勝はできていると思っている。冷静に分析してきた僕を感じ。ぜひ勝ってほしいな。

(畑岡は 2016 年 12 月に行われた米女子ツアー最終QTで 14 位となり、2017 年米女子ツアーのほとんどの試合への出場権をつかんだ。将来の夢に向かってスタートラインに立つ)

